

大豆畑トラスト消費者側事務局より (飯島)

現在、モンサント社などが開発している除草剤耐性・害虫耐性の大豆、なたね、トウモロコシ等は、食糧危機を救う農業技術の救世主では全く無く、また除草剤・殺虫剤等の薬剤散布を減らしてゆく技術でも全くない事を知って頂きたいと思います。モンサント社などの儲けのために遺伝子組み換え技術開発の'人体実験'の犠牲者に、私達になる必要など全くありません(「新庄大豆畑トラストだより」上林裕子さんのシリーズ、「遺伝子組み換え作物はいらない!」天笠啓祐著、「ロハスの思考」福岡伸一著 etc. 参照)。私達は、安心のできる美味しい農産物がどこの家庭の食卓にも上るよう有機農業技術の向上と精進を、都市消費者と農村農業者(加工者)との交流で可能にしてゆきたいと思っています。そのためにはこの農業の後継者が育ってゆく状況を創り出す必要があります。そこで私達消費者の誰でもができる事の一つが、周りの人にも呼びかけて安心のできる農産物を食べ続けて頂くことです。ただ、天候不順は、難敵中の難敵で、克服すべき課題は山ほどあります。しかしそれに取り組む「励み」を与えてくれるのが、このトラスト(信頼、信託)という消費者が支えてくれる顔と顔の見える提携のシステムです。その年の収穫の変動に動揺することなく、来年も再来年も協力協働態勢を担って頂いているこの産消提携です。それが、「安全確立の実証技術がない原発システム」のメルトダウンの放射能放出事故で、地域住民・子どもの生命・健康を危険に晒し続け、土壌・川・海・畜産・農産物を汚染し、その支え合う全国の産消提携にも大きな打撃を与えている事態が今もなお進行中です。脱原発社会実現が喫緊の課題となりました。再生可能なエネルギーへの政策転換の働きかけも、今以上にゆかなければならなくなりました。。

分かりあい、分かちあい、さあ今、新たに！

2012年6月